

(2019年度)

3 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は18ページ, 4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能を使用してはならない。また、スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しきらずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章を読み、問(1～3)に答えなさい。

東南アジアとインドでは、古くから東西に広くつながる交易ネットワークを成立させていた。前2世紀に漢がベトナム中部においた(1)では、南インドとの間に使者が行き来し、2世紀半ばには(2)から大秦王安敦の使節が訪れたとされている。1世紀に(3)下流域に成立した扶南は、マレー半島北部からベンガル湾にかけて交易をおこなった。扶南を象徴する港オケオの遺跡からは、ローマ帝国の金貨をはじめ、インドのヴィシュヌ神の像や後漢の鏡などが発掘されている。また(4)末に成立した林邑は、南シナ海に交易ネットワークを広げている。4世紀から6世紀にかけて北インドの(5)と南インド諸王朝の隆盛もあり、東南アジアではマラッカ海峡とベトナム中部で遠隔地貿易を中継する複数の港市国家が栄えた。バラモンの渡来もあって、サンスクリット語や文字、仏教、ヒンドゥー教などを選択して取り入れる「インド化」がそれらの港市国家で生じた。

一方、インドでは1世紀に季節風を利用してインド西岸と(6)を往復する航海が盛んとなり、これによって南インドは紅海経由で地中海世界と結ばれた。デカン高原では前1世紀頃に成立した(7)が2世紀に入ってインド東西の海岸を支配し、ローマの金貨が多く出土することから、海上交易で潤ったことがわかる。インド南端部では前3世紀頃からタミル人の王国である(8)やパーンディヤ朝が栄え、その後、ローマ帝国との交易で繁栄した。また、スリランカでは(9)系の(10)人が上座部仏教を受け入れ、4世紀以降インド洋交易の中心として活躍した。

問1 文中の空欄(1～10)に入る最も適切な語を、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- (1) a 安南都護府 b 日南郡 c 安西都護府 d 帯方郡
(2) a ローマ帝国 b クシャーナ朝 c ササン朝
 d パッラヴァ朝

- (3) a 紅河 b チャオプラヤー川 c メコン川
d イラワディ(エイヤーワディ)川
- (4) a 1世紀 b 2世紀 c 3世紀 d 4世紀
- (5) a デリー=スルタン朝 b ヴァルダナ朝 c ガズナ朝
d グプタ朝
- (6) a アラビア半島 b 南アフリカ沿岸 c 西アフリカ沿岸
d マレー半島
- (7) a マウリヤ朝 b チャールキヤ朝 c サータヴァーハナ朝
d ヴィジャヤナガル王国
- (8) a マガダ国 b モノモタパ王国 c シンガサリ朝
d チョーラ朝
- (9) a ドラヴィダ b アーリア c マレー d ペルシア
- (10) a シンハラ b クメール c ソグド d モン

問2 問題文の下線部(ア～ク)について、以下の問に答えなさい。

- (1) 下線部(ア)の説明として正しいものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。
- a 帝国は1世紀から2世紀にかけて「ローマの平和」(パクス・ロマーナ)の時代にあった。
- b カラカラ帝の治世下で帝国はその版図を最大にした。
- c 2世紀に帝国全土でキリスト教を公認した。
- d 帝国の西部ではラテン語が、東部ではヘブライ語が広く用いられた。
- (2) 下線部(イ)の説明として正しいものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。
- a ヒンドゥー教の三大神のひとつで、創造と破壊の神とされる。
- b ヒンドゥー教の三大神のひとつで、ブラフマン(梵天)とも呼ばれる。
- c ヒンドゥー教の三大神のひとつで、世界維持の神とされる。
- d ヒンドゥー教の三大神のひとつで、梵我一如を具現化した神とされる。

(3) 下線部(ウ)の説明として誤っているものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a この王朝の時代、班超が西域都護となって西域支配にあたった。
- b この王朝の時代、蔡倫が製紙法を改良した。
- c この王朝の時代、張騫が大月氏に派遣され、西域の事情を詳しく伝えた。
- d この王朝の時代、儒教の經典研究がさかえ、鄭玄らによって訓詁学が確立された。

(4) 下線部(エ)の説明として誤っているものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a チャム人によって建国されたチャンパーの中国名である。
- b 中国名では占城とも呼ばれる。
- c 17世紀に阮氏がフエを中心に建国した広南王国の属国となった。
- d 東南アジアで最初にイスラームを受容したことで知られる。

(5) 下線部(オ)の説明として正しいものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a この海峡には現在、フィリピンとインドネシアを分ける国境線が引かれている。
- b この海峡には現在、マレーシアとインドネシアを分ける国境線が引かれている。
- c この海峡には現在、ブルネイとマレーシアを分ける国境線が引かれている。
- d この海峡には現在、東ティモールとインドネシアを分ける国境線が引かれている。

(6) 下線部(カ)の説明として正しいものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 叙事詩『ラーマーヤナ』はこの言語で書かれた。
- b カーリダーサの戯曲『マハーバーラタ』はこの言語で書かれた。
- c ウラル＝アルタイ語族に属する言語である。
- d インダス文字はこの言語を書きあらわすときに使われた。

(7) 下線部(キ)の説明として誤っているものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ヒッパロスの風とも呼ぶ。
- b モンスーンとも呼ぶ。
- c サイクロンとも呼ぶ。
- d インド洋ではほぼ6月から10月にかけて南西から北東に向かって吹く。

(8) 下線部(ク)の説明として正しいものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a プラッシーの戦い(1757年)で主戦場となった。
- b 20世紀末にムスリムと仏教徒との間で深刻な内戦に苦しんだ。
- c 現在の首都はチェンナイ(旧マドラス)である。
- d 1815年に英領となり、1948年にイギリス連邦の自治領として独立した。

問3 インドと東南アジアに関する以下の問に関し、正しい答えをそれぞれの選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

(1) 15世紀前半に明の鄭和が南海大遠征を7回にわたって実施したとき、東南アジアにおいてその艦隊の根拠地となって台頭し、のちにイスラーム化した港市国家はどこか。

- a バンテン b マジャパヒト c マラッカ d パレンバン

- (2) 東南アジア大陸部で14世紀におこり、鹿皮などの森林産物やコメの輸出で栄え、17世紀前半には日本から西ヨーロッパにまで及ぶ国々と交易関係を持った港市国家はどこか。
- a タウンゲー(トゥンゲー)朝 b コンバウン(アラウンパヤー)朝
c スコータイ朝 d アユタヤ朝
- (3) インドでは前7世紀から前4世紀頃に多様な新思想(哲学)や宗教が生まれたが、それに含まれないものはどれか。
- a 仏教 b ジャイナ教 c ウパニシャッド哲学
d ゴロアスター教
- (4) インドにおけるイスラーム諸王朝に関する説明で正しいものはどれか。
- a ゴール朝は12世紀後半にガズナ朝を滅ぼし、インド侵入をくりかえした。
b 奴隷王朝はマフムードによって建てられた。
c ムガル帝国はバーブルの時代に最大の勢力に発展した。
d ムガル帝国に抵抗したマラーター王国はシク教徒が建てた国である。

2 次の文章(1～6)は中国がかかわった近現代の戦争の記述である。これを読んで、以下の問(1～7)に答えなさい。解答は、選択肢(a～e)の中から1つ選びなさい。

- (1) (ア)軍は奇襲攻撃によってソウルを陥落させ、半島南部の(イ)に迫った。これは、(ウ)が事前に了承し、中国側にも知らされていた軍事行動であった。これによって、(エ)がこの地に派遣され、(ア)軍を北側に押し返してなおも北上を続けると、中国軍が鴨緑江を渡り、(エ)の油断について大打撃を与え、戦局を再度逆転させて南下した。
- (2) この戦争では、平壤の陸戦と(オ)の海戦によって、日本軍の優勢が決

定的となった。その後、朝鮮を制圧して中国東北地方に侵入し、遼東半島を占領した。そして、威海衛を攻略して、李鴻章が率いる(カ)を壊滅させた。^(A)

(3) (キ)北部でフランス軍と中国軍との軍事衝突が繰り返されるなかで、フランス艦隊は台湾と福州を急襲したため、中国側は宣戦を布告した。イギリスの調停によって両国は条約を締結し、中国側は(キ)に対する宗主権を放棄してフランスの保護権を承認した。

(4) (ク)で軍事演習をしていた日本軍のすぐ近くで、何者かが銃弾を発射した。これを中国側の仕業と断定した日本軍は、中国軍に対する攻撃を開始した。これをきっかけに、両軍は全面戦争に入った。その後、戦局は、(ケ)・広州が相次いで陥落した頃から膠着状態に陥った。

(5) イギリスと(コ)が共同出兵し、広州を占領して天津に迫った。そこでいったんは中国側が敗北を認めて^(B)条約を結んだが、再び武力衝突が起これ、両国連合軍は北京を占領して円明園を焼き払った。このため、(サ)は北京を脱出し、^(C)熱河に逃れた。

(6) 山東省で勢力を拡大させた(シ)が北京に入ると、各国の公使館を包囲して日本やドイツの外交官を殺害する事件が発生した。(ス)はこれを支持して列強に宣戦を布告したため、列強8カ国が共同で出兵して北京を占領し、各国の公使館員を救出して(シ)を鎮圧した。

問1 文章(2～6)の記述を時系列順に並べると、2番目になるのはどれか。

- a (2) b (3) c (4) d (5) e (6)

問2 文章(2～6)の記述を時系列順に並べると、4番目になるのはどれか。

- a (2) b (3) c (4) d (5) e (6)

問3 空欄(ア～ス)に入る最も適切な語句はどれか。

- (ア) a 韓国 b アメリカ c ソ連 d 日本 e 北朝鮮
- (イ) a インチョン(仁川) b プサン(釜山) c ウォンサン(元山)
d ラソン(羅先) e スンチョン(清津)
- (ウ) a フルシチョフ b レーニン c トルーマン
d アイゼンハワー e スターリン
- (エ) a ソ連軍 b 米英連合軍 c 多国籍軍 d 国連軍
e 国連平和維持軍
- (オ) a 黄海 b 日本海 c 東シナ海 d 南シナ海
e 太平洋
- (カ) a 福建艦隊 b 新軍 c 朝鮮艦隊 d 北洋艦隊
e 淮軍
- (キ) a マレーシア b ビルマ c ベトナム d ラオス
e フィリピン
- (ク) a 柳条湖 b 張家口 c 奉天 d 盧溝橋 e 山海関
- (ケ) a 天津 b 武漢 c 成都 d 上海 e 重慶
- (コ) a 日本 b アメリカ c フランス d ドイツ
e ロシア
- (サ) a 同治帝 b 宣統帝 c 光緒帝 d 乾隆帝
e 咸豊帝
- (シ) a 太平天国 b 義和団 c 常勝軍 d 湘軍 e 淮軍
- (ス) a 西太后 b 李鴻章 c 袁世凱 d 曾国藩
e 康有為

問4 下線部(A)の人物の説明として、誤っているものはどれか。

- a 中国における最初の近代産業振興政策を主導した官僚の一人である。
- b 開港場での日本の製造業工場の設立・経営を認めた条約に調印した。
- c 太平天国の鎮圧に尽力し、その功績によって高級官僚に抜擢された。
- d 日本の台湾出兵をめぐる外交交渉を行った。
- e 陝甘総督として、東トルキスタンのイスラム教徒の反乱を平定した。

問5 下線部(B)の条約の中に盛り込まれていない項目はどれか。

- a 外国使節の北京常駐
- b 中国内地でのキリスト教布教の自由
- c 外国人の中国内地旅行の自由
- d 領事裁判権の承認
- e 開港場の増加

問6 下線部(C)の説明として、最も適切なものはどれか。

- a バロック式と中国様式が融合しており、カステイリオーネが設計に参画した。
- b フェルビーストが設計したが、中国固有の世界観を表現した宮殿である。
- c ビザンツ様式の影響が強く、壁面のほとんどはモザイクで装飾されていた。
- d 西洋の学術を中国に紹介したアダム＝シャルルが晩年を過ごした宮殿である。
- e 明朝の時代に造営され、イエズス会の世界観が反映されている。

問7 文章(6)の戦争が終結した後、中国で起こった変化として誤っているものはどれか。

- a 関税自主権を奪われたことによって、国内の近代産業を保護できなくなった。
- b 首都北京に外国の軍隊が合法的に駐屯できるようになった。
- c 政府内の保守派の発言権が弱まり、近代的な政治改革が本格的に始まった。
- d 莫大な賠償金の長期にわたる年賦払いのために、関税・塩税収入が担保にされた。
- e 政府は排外運動の取締強化を約束させられた。

3 次の文章を読んで、以下の問(1～9)に答えなさい。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

イベリア半島にいつから人類が暮らし始めたのかは、正確には分らない。われわれの直接の祖先にあたる現生人類の(1)は、フランスの方から到来したと考えられている。フランス南西部からスペイン北部にかけて約350の洞穴絵画が発見されている⁽⁷⁾。人の手形、バイソン、マンモス、ウマ、シカなどが写実的に描かれており、狩猟の成功が祈願されたようだ。

前9世紀頃から、フェニキア人⁽¹⁾、続いてギリシア人が、地中海で活発に活動するようになった。彼らはイベリア半島をも訪れ、交易や植民を行っている。フェニキア人が築いた多数の植民市の1つガデス(現カディス)の後背地とされる「タルテッス」⁽⁹⁾は、銀の主要な生産地であった。フェニキア人は、オリーブ油、ワイン、雑貨類などと、東地中海で不足がちだった金、銀、銅、錫^{すず}などの金属を交換した。植民市カルタゴを建設した(2)がアッシリアや新バビロニアの攻撃によって衰退すると、カルタゴはイベリア半島を含む西地中海のフェニキア人の交易拠点を引き継ぎ、前6世紀頃以降、大勢力を誇った。

西地中海での覇権をカルタゴとローマが争ったのが、ポエニ戦争である。第1

次ポエニ戦争では、イベリア半島の人々もカルタゴ側の傭兵として参加したが、カルタゴは敗北した。カルタゴは、ローマとの戦争のための資源として利用するため、イベリア半島の征服と経営を進めた。第2次ポエニ戦争では、将軍ハンニバルがイベリア半島を出発し、アルプスを越えて北からイタリア半島に侵入し、ローマを苦しめた。ローマ側は、将軍(3)がイベリア半島、続いてカルタゴ本土を攻撃した。(3)は(4)でハンニバル軍に大勝し、第2次ポエニ戦争もローマの勝利に終わった。第3次ポエニ戦争でカルタゴは徹底的に破壊され、滅亡した。^(エ)

ローマはイベリア半島にも(5)を設置し、先住民の抵抗にあいつつも征服を進め、全域を支配下におさめた。地中海を「我らが海」と呼び、その周辺全域を支配下におさめたローマ帝国にあって、イベリア半島も繁栄を謳歌した。建設された街道、橋、水道橋、そして劇場や円形闘技場などの遺跡は現在も残る。イベリア半島出身の人物としては、初めての(5)出身の皇帝トラヤヌス、そしてハドリアヌス帝やテオドシウス帝^(オ)、またネロ帝の師(6)が知られる。

476年に滅亡した西ローマ帝国領内にゲルマン人の諸国家が成立する中で、ガリア西南部からイベリア半島にかけては、西ゴート王国が建国された。この王国は、後に(7)に敗れてガリアを失い、半島南部を(8)により占領されるなど不安定な時期もあったが、カトリックに改宗したことなどにより、7世紀には政治的統一が保たれるようになった。しかし征服戦争を進めるウマイヤ朝軍^(カ)により西ゴート王国が滅亡すると、以後およそ800年、イベリア半島にはイスラームの国家が存在することになる。

ムハンマドの叔父の子孫によりウマイヤ朝が滅ぼされると、ウマイヤ家の人々はイベリア半島に逃れ、(9)を首都とする後ウマイヤ朝をたてた。後ウマイヤ朝は、10世紀、(10)がファーティマ朝に対抗してカリフを称し、最盛期を迎えたが、財政の疲弊や政治への不満から内戦が起こり、滅亡した。北アフリカでは先住民ベルベル人のイスラーム教への改宗が進み、(11)を都に、ムラービト朝、続いてムワッヒド朝^(キ)が建てられた。いずれも、国土回復運動(レコンキスタ)が盛んになったイベリア半島に進出したが、敗退している。イベリア半島の最後のイスラーム王朝はナスル朝^(ク)である。1492年に(12)が陥落し、イベリ

ア半島は再びカトリックのものとなった。

問1 空欄(1~12)に入るもっとも適切な語句はどれか。

- (1) a アウストラロピテクス b グリマルディ人
c クロマニヨン人 d ネアンデルタール人
e ホモ=エレクトゥス
- (2) a ウガリト b シドン c ダマスクス d テイルス
e ビブロス
- (3) a オドアケル b クラッスス c スキピオ
d セクステイウス e プルートゥス
- (4) a アルベラの戦い b カンナエの戦い
c サグントゥムの戦い d ザマの戦い
e テルモピレーの戦い
- (5) a 自治市 b 自治州 c 植民市 d 属州 e 同盟市
- (6) a エウセビオス b エピクテトス c セネカ
d プリニウス e プルタルコス
- (7) a カール大帝(シャルルマーニュ) b カール=マルテル
c クローヴィス d 東ゴート王国 e ブルグンド王国
- (8) a ノルマン人 b 東ゴート王国
c ビザンツ帝国(東ローマ帝国) d フランク王国
e ベルベル人
- (9) a グラナダ b コルドバ c セビリャ d トレド
e メリダ
- (10) a アブー=バクル b アブド=アッラフマーン3世
c アル=アッバース d ハールーン=アッラシード
e マンスール
- (11) a アレクサンドリア b カイロ c セウタ
d マラケシュ e モガデイシュ

- (12) a グラナダ b コルドバ c セビリャ d トレド
e メリダ

問2

(1) 下線部(ア)に関連して、イベリア半島の洞穴はどれか。

- a アルタミラ b ヴィレンドルフ c ショベ
d ネアンデルタール e ラスコ

(2) (1)の洞穴絵画はどの時代のものか。

- a 旧石器時代 b 新石器時代 c 青銅器時代 d 鉄器時代
e 歴史時代

問3 下線部(イ)について、誤っている説明はどれか。

- a アケメネス朝ペルシアはフェニキア人の交易を保護した。
b ガラス工芸や紫の染料などの交易で繁栄した。
c 交易活動での記録などのため、表音文字であるアルファベットを作った。
d 造船や輸出のため、レバノン杉を大量に伐採した。
e 交易の重要拠点として、植民市マッサリアを建設した。

問4 下線部(ウ)に関連して、「歴史の父」と称される人物が「タルテッソス」という国の「発見」について記述している。この人物は誰か。

- a イブン=ハルドゥーン b タキトゥス c トウキディデス
d ポリビオス e ヘロドトス

問5 下線部(エ)に関連して、カルタゴ滅亡以前の出来事はどれか。

- a アンティゴノス朝マケドニア滅亡 b セレウコス朝シリア滅亡
c バクトリア滅亡 d パルティア滅亡
e プトレマイオス朝エジプト滅亡

問6 下線部(オ)について、誤っている説明はどれか。

- a ローマの伝統的な宗教の信仰を禁止した。
- b ゴート人をローマ帝国領内に定住させた。
- c この皇帝の時から、コンスタンティノーブルが皇帝の常駐都市として首都的な機能をはたすようになった。
- d 西ローマ帝国を次子、東ローマ帝国を長子に分与した。
- e ネストリウスを異端として追放したエフェソス公会議を主宰した。

問7 下線部(カ)について、誤っている説明はどれか。

- a アブド=アルマリクは、アラビア語の公用語化や新貨幣の鑄造を行った。
- b アラブ人ムスリムによる異民族支配の体制が構築され、「アラブ帝国」とも呼ばれる。
- c クライシユ族のウマイヤ家出身のムアーウィヤが、世襲カリフ制の道を開いた。
- d トゥール・ポワティエ間の戦いでカール=マルテルに敗れた。
- e バスラを首都とし、西北インドからイベリア半島までの版図を支配した。

問8

(1) 下線部(キ)に関連して、ムワッヒド朝につかえた人物は誰か。

- a イブン=サウード(アブド=アルアジーズ)
- b イブン=シーナー(アヴィケンナ) c イブン=バットウータ
- d イブン=ハルドゥーン e イブン=ルシュド(アヴェロエス)

(2) (1)の人物の注釈書はラテン語に翻訳され、中世ヨーロッパのスコラ学に大きな影響を与えた。彼は誰の著作に注釈をつけたのか。

- a アリストテレス b キケロ c セネカ d ソクラテス
- e トリボニアヌス

問9 下線部(ク)に関連して、この政権の下でつくられたものはどれか。

- a アズハル学院 b アルハンブラ宮殿 c コルドバの大モスク
d サンチャゴ＝デ＝コンポステラ e ニザーミーヤ学院

4 次の文章を読んで、問(1～8)に答えなさい。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

19世紀後半から20世紀初頭にかけてのイギリスは、(1)党と(2)党の
二大政党が国内政策で対立し、政権交代を繰り返していた。しかし、植民地拡大
による大英帝国の発展という点では、両党は共通していた。イギリスの帝国主義
政策は、(1)党の(3)首相のもとで本格化した。たとえば、1874～1880
年の第二次(3)内閣の時に、イギリスは(4)の経営権を握り、イギリス
国王を君主とするインド(5)を樹立し、1878年の(6)条約によってキプ
ロスを獲得した。一方、(2)党の(7)内閣の時にも、1881～82年にエジ
プトの軍人(8)が起こした反乱をイギリス軍が鎮圧した結果、エジプトを事
実上イギリスの(9)としている。また、1880年代後半に(2)から離脱し
て新しい政党を作った(10)は、1895～1903年に植民地大臣となり、帝国主義
政策を推進してアフリカ南部の植民地を拡大した。

イギリスは、19世紀後半から20世紀初頭、白人系植民地に次々と自治を与え
た。(11)はその最初の例である。しかし、アイルランドには自治はなかなか
与えられなかった。19世紀末に(7)は、自分の最後の政治的課題としてアイ
ルランド自治法案を二度議会で提出したが、自党の議員から反対に回るものが出
たり、上院の反対があって、成立しなかった。アイルランド自治法が議会で可決
されたのは(12)年のことである。しかし、第一次世界大戦がこの年に勃発し
たため、その実施は延期されることになった。アイルランド独立を主張する
(13)はこの延期に反発し、その一部は法が成立した2年後に起こった
(14)に加わった。一方、北アイルランドの住民の多くは独立に反対し、アイ
ルランド内部で対立が激しくなった。結局この問題は第一次世界大戦後、北アイ

ルランドはイギリスに残留し、残りのアイルランドは独立する形で、一応の決着がつくことになる。しかし、これに満足しないアイルランドの組織が武力に訴え、それに反対する勢力も武力で応じたので、イギリスが直接統治するようになり、長く続く北アイルランド紛争となった。

問1 空欄(1~14)に入れるのに、もっとも適切なものはどれか。

- (1) a 共和 b 国民 c 自由 d 保守 e 労働
- (2) a 共和 b 国民 c 自由 d 保守 e 労働
- (3) a ウォルポール b カニング c グラッドストーン
d ディズレーリ e ロイド=ジョージ
- (4) a クルップ社 b シベリア鉄道 c スエズ運河
d スタンダード石油 e バグダード鉄道
- (5) a 自治領 b 帝国 c 藩王国 d 連合王国 e 連邦
- (6) a アドリアノーブル b サン=ステファノ c パリ
d ベルリン e ロンドン
- (7) a グラッドストーン b グレイ c コブデン
d ディズレーリ e ブライト
- (8) a ウラービー(オラービー) b サモリ=トゥーレ
c マフディー d ムハンマド=アリー
e ムハンマド=アフマド
- (9) a 委任統治領 b 信託統治領 c 同君連合国 d 保護国
e 連邦構成国
- (10) a ゴードン b ジョゼフ=チェンバレン c スタンリー
d マカートニー e ローズ
- (11) a オーストラリア b カナダ c ジブラルタル
d ニュージーランド e 南アフリカ
- (12) a 1904 b 1910 c 1914 d 1916 e 1918
- (13) a アイルランド国民党 b シオニスト c シン=フェイン党
d チャーティスト e フェビアン協会

- (14) a アムリットサル事件 b イースター蜂起
c 英貨排斥運動 d 六月蜂起 e ラダイト運動

問2 下線部(ア)の前身組織について、次の説明のうち正しいものはどれか。

- a ホイッグと呼ばれていた。
b 組織名は「スコットランドの反徒」という意味である。
c 主な支持基盤は地主階級であった。
d 穀物法廃止に挙党一致で賛成した。
e 支持者には非国教徒が多かった。

問3 下線部(イ)の建設を主導した人は誰か。

- a オスマン b テイエール c レセップス
d ロスチャイルド e ロックフェラー

問4 下線部(ウ)について、下記の重要事項を時代順に並べると、3番目にくるものはどれか。

- a 第1回国民会議の開催
b 英印円卓会議の終了
c ベンガル分割令の発布
d ガンディーの「塩の行進」
e ローラット法の制定

問5 下線部(エ)の経営権を握るため、イギリスはどこから株を買収したか。

- a エジプト b オスマン帝国 c ギリシア d フランス
e ロシア

問6 下線部(オ)について、次の説明文のうち誤っているものはどれか。

- a クロムウェルによる征服以降、アイルランドに、イギリス人=不在地主、アイルランド人=小作農・農業労働者、という構造が根付いた。
- b アイルランドは元来ケルト系の人々が住み、4～5世紀頃、キリスト教が伝わった。
- c 19世紀初頭、アイルランド議会の廃止と領土併合を規定した法によって、イギリスはアイルランドを併合した。
- d 1860年代のジャガイモ飢饉によって、アイルランドでは100万人以上が餓死し、ほぼ同数の人がヨーロッパ大陸諸国に移住した。
- e 大多数がカトリックであるアイルランド人は、1820年代末にカトリック教徒解放法が出るまで、公職に就けなかった。

問7 下線部(カ)以前に起こった次の紛争や出来事を年代順に並べると、3番目にくるのはどれか。

- a オーストリアによるボスニア・ヘルツェゴヴィナの占領と行政権獲得
- b 青年トルコ革命
- c 第2次バルカン戦争
- d 露仏同盟の締結
- e 第一次モロッコ事件

問8 下線部(キ)に関する次の説明文のうち、誤っているものはどれか。

- a 北アイルランドのアルスター地域はプロテスタントが多く、ほとんどがカトリックの南アイルランドと対照的であった。
- b 1922年、アイルランドの南部諸州に自治権が認められ、アイルランド共和国が成立した。
- c アイルランドは1931年のウェストミンスター憲章によって、イギリス連邦内の主権国家となった。
- d アイルランドは1937年、新憲法を定め、国名をエールと改めた。
- e 独立運動の指導者デ=ヴァレラは、独立後、首相や大統領を務めた。



